



## 17 中国 秦皇島港戊己 バース建設事業(1)(2)

秦皇島港にバースを建設することより  
貨物需要増への対応に貢献

承諾額／実行額 64億5,900円／44億2,200万円  
 借款契約調印 92年10月、95年1月  
 借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド  
 貸付完了 2000年11月、2002年1月  
 実施機関 中華人民共和国交通部 URL: <http://www.moc.gov.cn>



### 本事業の目的

河北省秦皇島市に位置する秦皇島港において、雑貨7バース(埠頭)の建設により、北京-天津軸の輸送負担軽減を図り、河北省、北京市、内蒙古自治区等、1直轄市、7省、3自治区に及ぶ同港の広大な後背圏の経済発展に伴う貨物需要の急増に対応することを目的とする。

### 本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価 a

本事業においてバースを整備することにより、当初計画では秦皇島港雑貨貨物取扱量1,000万トン、戊己埠頭雑貨貨物取扱量300万トンを予定していたが、2005年の実績はそれぞれ2,046万トン、618万トンと、ともに計画を大幅に上回った。秦皇島港を総合港湾施設とする整備計画に基づき、鉄道網や道路網が拡充され、後背圏における1995年(本事業実施前)と2004年の石炭、石油、鋼材にかかる生産量を比較すると、それぞれ1.21倍、1.11倍、2.74倍と増加しており、同時期のGRDP(域内総生産)の平均名目成長率は13%と、全国平均11%に比し、高い実績値を確保している。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

### 本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価 a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。審査時では、第8次5カ年計画において港湾貨物取扱需要増に対応

するべく、主要港のバース建設、それによる貨物取扱量増大を課題として掲げていた。事後評価時においても第10次5カ年計画主要沿岸港の運輸システムや大量雑貨運輸システムの整備を重視しており、大水深バースの建設、効率的な運輸システムの形成が計画されている。

### 事業実施の経済性(効率性) 評価 C

本事業は、期間および事業費について計画を大幅に上回ったため(計画比216%および154%)、効率性についての評価は低い。事業遅延の主な要因としては、事業実施の再検討により着工許可が遅れたこと等、また、事業費増加の主な要因としては、事業規模や工期の拡大、インフレの発生等が挙げられる。

### 今後の展望(持続性) 評価 a

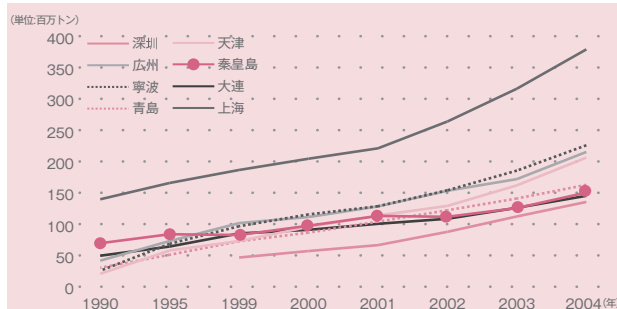
行政改革により、現在の実施機関は秦皇島港務集团有限公司、運営・維持管理機関は秦皇島港第八港務分公司務集团有限公司に変更されている。両機関の能力および維持管理体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれる。

### 結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。教訓としては、審査後の設計や計画の変更が、事業の効率性に影響を及ぼす可能性がある場合には、JBICの積極的な関与、適切な提言が必要になることが挙げられる。

中国主要8港貨物取扱量の推移

出典：中国公路水路交通統計



### 開発途上国専門家の意見

本事業実施は中国の開発政策やニーズに整合している。事業の遅れや資材高騰により投資に対する収益率は低下したが、貨物取扱能力向上という当初目的を実現している。

専門家の氏名： Mr. Song Zhijie (学者)  
 燕山大学博士(経営学)。現在、燕山大学経済経営学部長・教授。  
 専門は経営工学。